

2019年9月19日

日本陸上競技連盟アスリート委員会

委員長 高平慎士

## 選手選考要項作成に関する要望書提出のご報告

ドーハ世界陸上日本代表選手選考において、日本陸上競技連盟が作成した要項の不備によって右代啓祐選手の世界陸上出場が見送られました。日本陸上競技連盟アスリート委員会としては、この件を重く受け止め、日本陸上競技連盟に対し再発防止を求め、以下を含む要望書を提出いたしました。

1. 右代啓祐選手への経緯の説明
2. 当該条項への認識の有無に対する説明
3. 選考要項作成プロセスの開示とその改善案の提示
4. 選考要項を作成する場へのアスリート委員出席の承認
5. 危機管理対策室の設置
6. IAAFからの重要な情報は翻訳、承認を経て日本陸連内で共有するルールの確立
7. IAAFへ参加資格の明瞭化を要望

### 高平委員長コメント

陸上競技、アスリートを応援してくださっている皆様、いつも温かいサポート、応援ありがとうございます。日本陸上競技連盟アスリート委員会は2013年に発足され、日本陸上競技連盟と協力をしながら陸上競技の普及、発展、アスリートの競技環境の改善に向けて活動してまいりました。今回、右代選手に起こった問題は、アスリート委員会として、連盟内で精査され、改善策を講じられるべき事案と判断し、連盟に対し要望書を提出するに至りました。この要望書を契機に、制度の運用が見直され、アスリートが同じような不利益を被ることのない環境に改善されることを願っております。

なお、この要望書はアスリート委員会が連盟と対立するものではなく、共に陸上界をより良いものにしていくことを目的として提出させていただきました。これからもスポーツ界の発展にアスリートとしてできることに尽力して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。